

静電気・高電圧・放電・プラズマ若手研究委員会

1. 委員会の概要

静電気・高電圧・放電・プラズマ若手研究委員会は、10～20年後の将来を見据え、関連研究の中核となる基盤を創り出すことを目的として、2020年4月に発足した。若手研究者のみで自主的に委員会を運営し、研究者間の忌憚のない情報交換と議論を重ね、共同研究やプロジェクト申請などにつなげることを、このために委員自らが楽しく研究・交流を活発にすること、そしてそれを現役の学生に直接見てもらい、博士課程への興味を持ってもらうことを最も重要なミッションとしている。これにより、学術深化・躍進に寄与し、静電気学会の持続的な発展に貢献することを展望として掲げている。

本委員会は一定年齢以下の多岐にわたる分野の静電気学会員により構成されており、現在は37名の委員が所属している。2020年7月のキックオフから他学会の若手委員会との合同開催も含め、計8回開催し、22名程度の講師の方からご講演をいただき、研究交流を続けてきた。コロナ禍後では現地開催を主とし、「委員所属機関で開催し、多様な研究環境を実際に見学しながら、酒を交えて夜通しで議論し懇親を深め、これにより、将来長きにわたって切磋琢磨・支援しあう研究者仲間を作る」ことを重要視している。

2. 国際会議1st ASBFP&I-YES 2024の開催

本委員会を立ち上げた際の目的の一つは、国内だけではなく、国際的な若手交流を可能とする国際会議の立ち上げであった。コロナ禍が収束したことから、2024年7月4～6日に岩手大学理工学部・銀河ホールにおいて、日本・韓国・台湾などの静電気・高電圧・放電・プラズマ関連の若手研究者のみの国際会議「The 1st Asian Symposium for Building Future of Plasma (1st ASBFP)」ならびに、日本・韓国の学生を中心としたワークショップ「International Young Electrostatic Scholar Symposium for Convergence Technology 2024 (I-YES 2024)」を開催した(図1)。

会議は、7月4日のレジストレーション・ウェルカムパ



図1 シンポジウムの様子

ーティーからスタートした。ウェルカムパーティーでは、盛岡市の居酒屋に67人の若手研究者・学生が密になり、非常に大きな熱量のもと、熱心な懇親が行われ、多くの新しい絆ができていた。明るく日、釜山大学・Oi Lun Lee教授のプレナリートークからスタートし、先端研究における、共同研究や交流、コミュニティ拡大の重要性を再認識し、その後ASBFPとI-YESがそれぞれ並行して進行した。

1st ASBFPでは、博士課程の学生2名を含み、各国からの研究者から27件の口頭発表があった。静電気や放電、プラズマなどに関する基礎研究、環境・バイオ・流体制御・材料などへの応用研究、電源関係に関する研究など多岐にわたる分野における最先端の研究が紹介された。発表後の議論も深く進み、各個人での共同研究などにつながっている。

I-YES 2024は、榊原氏(岩手大学)がChair、Deng氏(東京工業大学)がCo-Chairとなり、運営と進行などは全て学生のみで行った。最初にアイスブレイクとして、全員から簡単に自己紹介があり、その後、各人の研究紹介を行った。発表件数は32件である。発表の内容は、静電気、放電や高電圧だけではなく、化学・材料など広い分野であったことや、慣れない英語での発表ということもあったが、全員が一生懸命に取り組んでおり、熱心な議論がされていた。また、学生同士による投票により、4件の発表賞が授与されるなど、互いの発表を讃えあっており、良い交流の場となったようである。

バンケットおよびエクスカージョンはそれぞれ別を実施し、それぞれでの交流を図った。このバンケット会場での議論にて台湾、韓国、日本で第2～4回目を開催することを決定した。2nd ASBFPは台湾・台南において、2025年7月3、4日の日程で開催する予定である。

3. 委員会のこれから

今後も引き続き積極的に、各地における委員会開催や、国際会議開催を実施する予定である。会員の皆様には、ぜひ若手研究者の紹介や委員への就任などによる、積極的な活動への参加をお願いしたい。これにより、活気がある若手研究者委員による、委員自らの成長と将来の静電気・高電圧・放電・プラズマ関連研究および学会の発展と活性化に寄与したい。また、常日頃、若手研究者への厚いご支援、ご鞭撻をいただいている学会の諸先生・先輩方に改めて深く感謝の意を表したいとともに、引き続きのご指導をお願いしたい。

(高橋 克幸・竹内 希)